

元気いっぱい 友だちいっぱい

横浜市立美しが丘小学校

令和3年2月26日

すすんで学ぼう 夢つくり



美小通信 10

横浜市情報教育ネットワーク(YY ネット)上に本校のホームページがあります。
URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushigaoka/>

学校長 松瀬 歩
青葉区美しが丘2丁目29
電話(901)3408

10年目の節目の年に思うこと

校長 松瀬 歩

河津桜が咲き誇り、春が近いことを感じさせてくれます。子どもたちの装いも身軽になり、先日の春を思わせるような日には半袖姿で遊ぶ姿もちらほら見られました。

卒業間際のこの時季に思い出されるのは東日本大震災。今年は発生から10年目の節目の年です。思い起こせば、10年前の3月11日、6時間目の授業中、大きな揺れが学校を襲いました。子どもたちは机の下にすぐに避難し、揺れが収まった時点で子どもたちのけがの有無の確認、避難経路の安全確認を行い、校庭に避難しました。ここまでは、普段の避難訓練通りに行動できました。ところが、校庭に集まると子どもたちのおしゃべりが止まりません。普段の避難訓練では、一切しゃべらない子どもたちがいつまでたっても静かにならないのです。経験したことのない大きな揺れの不安から誰かと話さなければ落ち着いていられなかったのでしょうか。そんなときに、大きな余震が襲ってきました。校庭にいてもはっきりと感じる大きな揺れに、高学年の中にも泣き出す子が出てくるほどでした。普段から、震度6以上の大きな地震に備えた避難訓練を行っていましたが、やはり、映像で見るのと実際に体験するのでは全く違うのでしょうか。我々教員も子どもたちの姿を見て、どのように行動すればよいか迷いました。大声を張り上げて静かにさせるか、友達と話すことで不安や恐怖を紛らわせている子どもたちの気持ちに寄り添ってしばらく様子を見るか、結局後者を選択しましたが、その選択があっていたのかは今でもわかりません。

その後、校舎の安全確認が済んだ後、教室に戻り、保護者への引き渡しを行いました。私が勤務していた学校は19時には全員の引き渡しが終わりましたが、国会議事堂見学に行っていた学校は東京の小学校で一夜を過ごしたと聞いています。見知らぬ学校で過ごした子どもたちはどのような思いだったのでしょうか。また、被災地の学校の子どもの恐怖と不安はどれほどのものであったのでしょうか。肉親や友達をなくした子どもたちは10年たった今、どのような気持ちでいるのでしょうか。報道番組を見るにつけ、風化させてはいけないと強く思います。

今、学校では、火事、地震、不審者など様々な状況を想定した避難訓練に月1回取り組んでいます。その中で、私が子どもたちにいつも伝えていることは、主に以下の二つです。

○訓練のときは本当のときのように、本当に起こったときは訓練のときのように行動する。

○避難訓練は、100点満点で合格、99点では不合格。本当に起こったとき、みんなの中で一人でも逃げ遅れないようにして全員の命を救うために、訓練で100点満点をとることが大切。

東日本大震災以外にも記憶の新しいところでは、熊本地震や広島県の水害なども挙げられます。災害はいつ起こるか分かりません。平常時の今だからこそ各家庭で避難方法を確認し、災害時の自助の準備を進め、減災に努めていくことが大切です。

3月19日は第52回卒業証書授与式です。今年度は、全世界がコロナで苦しみ迷い続けた年でありました。そんな中でも、できる範囲の中で工夫しながら前向きに学校生活を送り続けた6年生。その姿に、我々教職員もどれだけ力をもったことでしょうか。69名の卒業生が胸を張って美小を巣立っていけるように、在校生と一緒にしっかり準備を進めていきたいと思えます。